

1. 研究主題

思いや考えをもち、共に学び合い、のびゆく子どもの育成 ～国語科、社会科、総合的な学習の学びを深めるICT活用～

2. 主題設定の理由

(1) 教育の今日的課題から

新しい学習指導要領等が目指す姿は「生きる力」の理念の具体化である。それは、情報化やグローバル化など人間の予測を超えて進展する社会的変化の中で、子どもたちが未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に備えることのできる学校教育を実現することである。様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら、自分を社会の中でどのように位置付け、社会をどう描くかを考え、他者と一緒に生き、課題を解決していくための力の育成が社会的な要請となっている。育成すべき資質・能力の3つの柱として、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」が挙げられている。これらの資質・能力を育成するために、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」を考えていく必要がある。

PISA や全国学力・学習状況調査の結果からは、文章の構成や内容を理解して解答すること、適切な根拠に基づいて説明することなどに課題が見られる。また、授業におけるコンピュータの使用状況が国際的に見て低い傾向にあるため、コンピュータの画面上で考察したり、情報を整理・再構成したりする機会が少ないことも課題である。学習指導要領改訂のポイントにおいても、その他の重要事項「情報活用能力（プログラミング教育を含む）」について、①コンピュータ等を活用した学習活動の充実（各教科等）②コンピュータでの文字入力等の習得、プログラミング的思考の育成（算数、理科、総合的な学習の時間など）が挙げられている。

こうしたことから、基盤となる言語能力（語彙力・読解力）・情報活用能力の育成を図ること、さらに、生きて働く（社会における様々な場面で活用できる）知識・技能の習得のため主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」）の視点からの学習過程の質的改善が必要であると考えられる。

(2) 学校教育目標から

本校では、「豊かな心と自ら学ぶ意志をもち、変化の時代を生き抜くたくましい木次の子の育成」を教育目標に掲げ、次の4つのめざす子ども像（校訓）を柱に教育活動に取り組んでいる。

「剛健」…たくましくがんばる子

「知力」…じっくり考える子

「勤労」…進んではたらく子

「友愛」…あたたかい心で助け合う子

そして、「みんなで成長する楽しい学校」を合言葉に、「チーム木次小」として全教職員一丸となって取り組んでいる。今年度の重点は以下のとおりである。

授業づくり

・ICT を活用した授業

・情報活用能力の育成

・プログラミング教育の充実

・異学年の学習交流

集団づくり、仲間づくり

・話し合い活動の充実

・健全な自尊感情の育成

・あきば班活動の充実

・リーダー育成

心と身体の健康

・家庭と連携した基本的な生活習慣の確立

・情報モラル教育の推進

・体力づくりの推進

個に応じた指導の充実

・インクルーシブ教育の推進

・ICT を活用した支援グッズの紹介と共有

・理解教育の推進

・特別支援教育の視点に立つ授業づくり

(3) 児童の実態から

本校は全校児童 202 名、学級数 11（特別支援学級を含む）の中規模校である。平成 26 年 4 月に温泉小学校と統合し、現在は 16 名が温泉地区からスクールバスで通学している。

校区は雲南市のほぼ中心に位置し、すぐ近くには、日本桜名所百選に選定された斐伊川堤防の桜並木があり、四季折々の美しさを感じることができる。また、校区には JR 木次駅、市立図書館などの主要施設があるほか、古くからの商業が栄えた街並みも残っている。

児童は素直で、何事にも前向きに取り組もうとする。学習においても、課題解決に向かって真面目に取り組もうとする。しかし、ペアやグループなどの小集団では自分の考えを話したり、友達の考えに対して、よい塩味が聞かれたりするが、学級全体での話し合い、特に、思考・判断を要する課題について自分の考えを述べることができにくい。また、学級全体で考えを練り上げていく力が十分ではない。

学力状況調査の結果からは、基礎的・基本的な内容についての理解は概ねよいが、活用力が問われる問題に弱みがあることが分かった。国語では、目的に応じて表現を工夫して要点をまとめる力が依然として弱い。算数では、図や式を自分の言葉で説明する力、既習の内容を問題場面に応じて活用する力には、依然として課題がある。基礎的な内容の徹底とともに、思考力・判断力の育成を図る取組の継続が必要である。

ICT 機器の活用については、平成 28 年度からのタブレット端末の導入により、写真や動画の撮影、資料の共有・選択など、学習での活用場面が広がってきている。また、平成 29 年度からは「身に付けさせたい情報活用能力」一覧表を基に授業での ICT 活用を計画的に進めており、児童は ICT 機器の操作や学習での活用の仕方に慣れてきている。昨年度は、情報収集や整理・分析場面でもタブレット端末を利用する学習に取り組み、ICT 機器の活用により、情報活用能力の高まりが見られるようになった。

(4) 昨年度までの取組から

平成 29 年度は 1 年次として、基盤となる授業の流れやノート指導、掲示等の教室環境といった授業づくりや学習態度の育成について全員で共通理解を図った。そして、各教室にある壁掛けプロジェクター、書画カメラ、教師用のタブレット端末の環境を生かし、主に教師が活用する場面を中心に研究実践に取り組んできた。プロジェクターで大きく映し出すことは、支援が必要な児童にとって有効な視覚支援となり、学習に意欲的に取り組めるようになった。また、ノートをそのまま拡大して提示することで、すぐに発表ができ、効率的な授業展開につながった。さらに、ICT 機器の活用により、児童が課題を発見しやすくなったり、集中して学習に取り組んだりできるようになり、基礎的・基本的な知識・技能の習得に一定の成果が見られた。しかし、必要な情報を自ら集めたり、課題解決の提案の際に、その根拠となる情報を説明したりすることが苦手な児童が多く、これは、児童の情報活用能力の育成を意識した授業がまだ十分ではないからだと考えた。

そこで、2 年次の昨年度は、系統的な情報活用能力の育成カリキュラムを見直し、タブレット端末を活用した授業モデルを考えると共に、課題設定—情報収集—整理・分析—まとめ・表現という一連の単元構成を取り入れ、相手や目的を意識して必要な情報を選んだり、根拠を示して伝えたりする課題解決型の学習を進めることを重点に研究に取り組むことにした。低学年では語彙力・読解力という学びの基盤を育てるために国語科を、中学年では日常生活に密着した内容での課題解決学習として社会科を、高学年では教科横断的な視点での課題解決学習として総合的な学習の時間を研究教科とし、学年部を中心に研究実践を進めた。日々の授業を大切に、授業改善、授業力の向上を

目指して取り組んだことにより、「めざす子ども像」に近づきつつあるという手ごたえを感じた 1 年であった。しかし、「学習課題の設定、見通し」「個人思考、集団思考」「ICT 機器の活用」についてまだ十分に達成できていない面もある。（また、情報モラル教育、情報活用能力の体系化といった ICT 活用に付随する部分の取組も十分とは言えない。）

そこで、3 年次となる今年度は、「学習課題や見通しの焦点化」「思考や話し合いの視点の明確化」「ICT 機器の利用場面・方法の吟味」を重点に研究実践に取り組み、その中で情報モラル教育の推進、情報活用能力の育成にも力を入れていきたい。

また、今年度は 10 月 18 日に JAET 全国大会が開催され、木次小学校も 1 年生「国語」、3 年生「社会」、6 年生「総合的な学習の時間」、難聴学級「自立活動」の 4 学級の授業を公開することになっている。ICT 機器を活用することで広がり深まっていく学習の中で、児童が生き生きと学ぶ姿を見てもらえるようにしたい。

3. 研究主題の受け止め

(1)「思いや考えをもつ」とは、

- ・自ら課題を見出し、向き合おうとする
- ・課題に対して、自分の思いや考えを自覚する
- ・根拠や理由を明確にして、表現しようとする

(2)「共に学び合い」とは、

- ・自分の思いや考えを伝え合おうとする
- ・友達の思いや考えを認め、自分の考えと比べて聞いたり考えたりしようとする

(3)「のびゆく子」とは、

- ・友達と思いや考えを伝え合う中で、自分の考えを深めたり、新たな考えを見出したりする子
- ・他の考えと関わることによって、集団としての考えを発展（深める・広げる）させていくことができる子
- ・お互いの思いや考えをもとに学習を深め、分かり合う喜びを感じる子

4. 研究目標

「思いや考えをもち、共に学び合い、のびゆく子」を育成するために、課題解決型の学習の中で ICT をどのように活用すればよいか、授業実践等を通してその効果的な活用のあり方を明らかにする。

5. 研究でめざす子ども像

○自分の思いや考えをもち、主体的に学習に関わろうとする子（研究の視点①）

・・・課題対応能力

○お互いの思いや考えを共有し合い、さらに深めていこうとする子（研究の視点②）

・・・伝え合う力 課題対応能力

○課題解決に向けて思考・判断し、表現する力を身に付けようとする子（研究の視点③）

・・・課題対応能力 伝え合う力 情報活用能力

6. 研究の視点と内容

○視点（１）学ぶことに興味や関心をもち、課題解決への見通しをもって学習に取り組めば、自分の思いや考えをもち、主体的に学習に関わろうとする子が育つであろう。

- ①教材・学習課題との出会いの場の工夫
- ②ねらいや学習課題、学習の流れの明確化
- ③まとめや自己評価・相互評価による振り返りの場の設定

○視点（２）子ども自身の思考や表現に結びつくような学習の場（学習プロセス）を工夫すれば、お互いの思いや考えを共有し合い、さらに深めていこうとする子が育つであろう。

- ①個人思考を深める手立てや位置づけの工夫
 - ・ワークシート、ノート指導、資料の提示、操作活動等
- ②ペア学習やグループ学習など、思いや考えを表現する場の工夫（思考過程の共有化）
 - ・具体的な言語活動の工夫
 - ・話し合いの形態の工夫

○視点（３）情報活用の視点を明確にし、学習の中で児童がICTを活用する場面を設定すれば、課題解決に向けて思考・判断し、表現する力が育つであろう。

- ①情報収集、整理分析場面でのタブレット端末の利用
 - ・情報の整理、根拠や理由場面の撮影等
- ②グループ学習での共同学習ツールとしてのタブレット端末の活用
 - ・ロイロノート等の授業支援ソフト（プロジェクター投影アプリ）の活用等
- ③発表場面で、根拠資料としてのタブレット端末の利用
 - ・Pen Plus Classroom等の授業支援ソフト、プレゼンアプリ、写真、動画の活用等

7. 研究組織

（１）研究職員会議：全教職員・・・研究推進についての共通理解、指導案審議、研究協議

（２）研究部会：内田、松岡、藤田、大久保・・・研究構想、研究計画

（３）学年部会・・・授業構想、指導案審議、授業準備、

- ①低学年部：今岡、内田、永井、小笠原
- ②中学年部：久我、藤田、森山、藤原
- ③高学年部：大久保、黒田、恩田、早川
- ④特支部：松岡、堀江み、周藤、槇原、渡部

（４）専門部会

- ①ICT推進部：松岡、大久保、（久我）・・・ICTを活用した授業実践の蓄積、職員研修の実施
- ②学力育成部：藤田、内田、（小笠原）・・・授業改善にむけた提案、児童の実態調査
- ③運営部：藤原、森山、堀江け・・・大会当日に向けた準備は、授業者以外の全員で分担して取り組む。

9. 研究の経過

月	研究の内容（研究授業・研究職員会・校内研修会等）	研究学年部会
4	5日（水）JAET 全国大会に向けた研究推進について （町内の連携、授業公開について） 15日（月）今年度の研究の進め方について （木次中学校区で目指す「身に付けたい資質・能力」等の共通理解）	
5	13日（月）これまでの研究経過と、今年度の研究の方向性について 「情報活用能力系統表」「情報活用能力年間指導計画」の作成	15日（水）・29日（水）
6	5日（水）情報交換会（JAET 授業者） 10日（月）職員会議 指導案説明 13日（木）指導案送付 20日（木）中川先生訪問指導	19日（水）・26日（水）
7	17日（水）JAET 運営部会 23日（火）学習指導案（密案）作成 ・運営準備 25日（木）JAET 大会運営について 30日（火）県メディア教育研修会（本校） 31日（水）JAET 合同研究部会（木次中）	3日（水） 23日（火）低・中 29日（月）高
		児童への実態調査（1）
8	7日（水）JAET 大会合同研究部会（木次中） 26日（月）JAET 大会公開授業指導案審議	7日（水）中 8日（木）低・中・高 23日（金）低
9	2日（月）JAET 大会準備日程について、情報活用能力系統表の見直しについて	4日（水）・11日（水） 18日（水） 25日（水）指導案確認
10	7日（月）JAET 大会打ち合わせ（校内） 8日（火）初任研訪問指導（深田指導主事、西指導主事） 16日（水）JAET 大会会場準備 17日（木）JAET 大会会場準備、最終打ち合わせ 18日（金） JAET 全国大会公開授業（中川先生） 24日（木）校内研究授業 9 組（算数）	2日（水） 9日（水）
11	5日（火）校内研究授業 3 年（音楽） 11日（月）研究集録の作成について 29日（金）校内研究授業 4 年（社会）	
12	2日（月）今年度の取組の反省について 3日（火）校内研究授業 5 年 1 組（学級活動） 12日（木）校内研究授業 5 年 1 組（外国語活動）	
		児童への実態調査（2）
1	14日（火）校内研究授業 2 年 2 組（国語） 20日（月）プログラミング学習研修〈大久保先生〉 21日（火）校内研究授業 2 年 1 組（算数）	
2	3日（月）研究の振り返りにについて	
3	2日（月）来年度の研究の方向性について	



